

就学前教育における発達課題とその遂行——幼保一元化と小学校への接続

子ども学科 佐々 加代子

(1) 研究目的

学校教育では小1問題が重たい課題になっている。幼児期から学童期への接続・移行に何らかの問題があったと言わざるを得ない。就学前教育におけるそれぞれの子どもたちの発達課題がみえており、そこに教育・保育実践が加えられていけば、接続・移行の問題はかなり改善されるのではないだろうか。幼児教育・保育実践現場で、臨床的視点を加えて就学前教育における問題の見方が明確になれば、その子どもたちの発達課題が見えてくる。得られた知見のもとによる成果を得ることは、就学前に潜む問題と課題が明確になるものととらえられる。

(2) 研究成果の報告

1. 幼稚園期になるまでの子どもの体全体の育ちの脆弱化が明確になった。問題の要因について見えてきた。
2. 一人一人の個別の発達評価から個とクラス集団の発達課題が見い出せることになった。その発達課題の支援としての教育実践が求められるこ

とになる。

3. 教育・保育者側にその発達課題を見据えて実践してくには、視点が必要であり、実践力が求められることになる。
4. 現場のなかでその視点を得て実践が可能になるには園内外での研修が求められる。
5. 教育課程の編成は、従来型ですすめていくと無理が生じることになる。編成を変えていくには、就学前までにどこまでの育ちへの支援があるといいのかが問われてくる。
6. 個別とクラス集団の発達課題の幅の広がりや問題の深さによって、教育課程全体を編成しなおし急務になる。園の運営上の課題になる。

学会誌等

佐々加代子ほか共同研究者で、日本保育学会第64回大会発表

就学前の発達課題 体基盤づくり I (1), (2)
発表要旨集 257-258

「子育て支援ネットワークづくりに関する研究」 —行政、市民、大学との三者協働 (1)—

短期大学保育科 瀧口 優

はじめに

平成20年度までの3年間学術振興資金を得て「子育て支援ネットワークづくりに関する研究」として、小平市や周辺自治体における子育て支援の現状と課題についての調査研究をさまざまな角

度から取り組み、地域における子育て支援のほかソーシャル・キャピタルの現状、及び保・幼・小の連携についてまとめてきた。更に平成22年度までの2年間は「小平地域における子育てネットワークに関する研究」として研究を継続し、平成